



トコジラミ

～駆除困難なため家の中に持ち込まない～

2023 年秋ごろからフランス、韓国等、世界でトコジラミ被害が拡散しています。20℃以下では冬眠状態になるようですが、冬でもホテルや部屋の室温が暖かく保たれている状況では、繁殖力が強く、完全に駆除することが困難な昆虫です。

日本でも戦後は、都会や集合住宅、簡易宿泊所などでよく見られた害虫ですが、生活環境の変化、殺虫剤の普及により 1960 年代半ば以降激減していました。2000 年代に入って海外旅行も活発となり、人、モノの移動が短時間、大量輸送されるようになりました。また、殺虫剤に抵抗性を持ったトコジラミも現れ、欧米などの先進国や日本でも宿泊施設等で被害が報告されています。今後も注意が必要な害虫です。

生態:カメムシの仲間

- 体長は、5mm～8mm、体形はだ円型、空腹時は扁平、吸血すると丸く膨らむ。
- 暗いところが好きで隠れるのが得意。
- エサは血液のみオスもメスも血を吸う、毎日 3～6 個卵を産み続ける。
- 血を吸えなくても 2～3 ヶ月は生存可能、寒さにも強い。
- 卵に防虫剤が効かない。卵から羽化して成虫になるまで 1 か月程度かかる。
- 隠れ場所は、ベッドの周囲、カーテンやドアレールの隅、ソファの隙間やじゅうたんの裏など糞は、血液を吸っているため黒く、隠れ場所の周囲にシミのような跡を残す。



感染予防:外から持ち込まないことが重要。

- 荷造り等は、日中に終わらせる。(トコジラミは夜活動するので荷物に紛れ込む危険あり)
- 旅行バッグ等は清掃してから部屋に持ち込む。
- 部屋の隅々まで掃除機で掃除し、吸引したごみは、ナイロン袋にいれ封をして捨てる。
- 家族内で吸血される被害があると業者による徹底した清掃が必要となる。
- 防虫剤は、トコジラミへ有効な防虫剤をベッドの隙間、床などに使用する。
- 高温に弱く、80℃では 5 分、100℃では数秒で死滅する。(卵にも効果あり)



被害の状況:吸血されても痛みがなく気づかない。

- 刺されるのは、腕や足、首回り等、就寝中に衣類から露出している部分。
- 刺されると赤い発疹が出来ますが、症状には個人差があり、痒みで夜も眠れない人もいます。
- 赤い発疹は 1～2 週間消えずに跡が残る。被害力所は広範囲。
- 掻きむしって皮膚炎を起こすことがある。
- 住居に広がってしまうと個人で駆除するのが困難、専門の業者へ依頼する必要がありコストがかかる。



不安なことやわからないことがあれば保健室までご相談ください。

保健室 TEL0725-92-7614 窓口月～金 9:10～16:40 メール:hoken@andrew.ac.jp